第１２０回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年９月１６日提出）

１．題　目：モジュール・フォーラム -モジュールⅡ前期科目の総括-

２．日　時：平成 27 年 9 月 14 日（月）　15：45～17：30

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員（おもに全学モジュール関係者）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　本プログラムでは、今年度のモジュールⅡ前期科目担当者への総括アンケートおよび学生による授業評価の結果をもとに、各モジュールでの工夫点と課題を共有し、今後の改善方向を検討します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　松坂誠應　理事
　　山地弘起　教授（大学教育イノベーションセンター）
　　若菜啓孝　教授（大学教育イノベーションセンター）

【内容】　①モジュールⅡ前期科目の総括アンケートの結果報告と意見交換
　　②学生による授業評価の結果報告と意見交換
　　③制度面・実践面での改善方向の検討

９．参加者：１５名（受講証発行対象者：１４名（学外者１名除く））

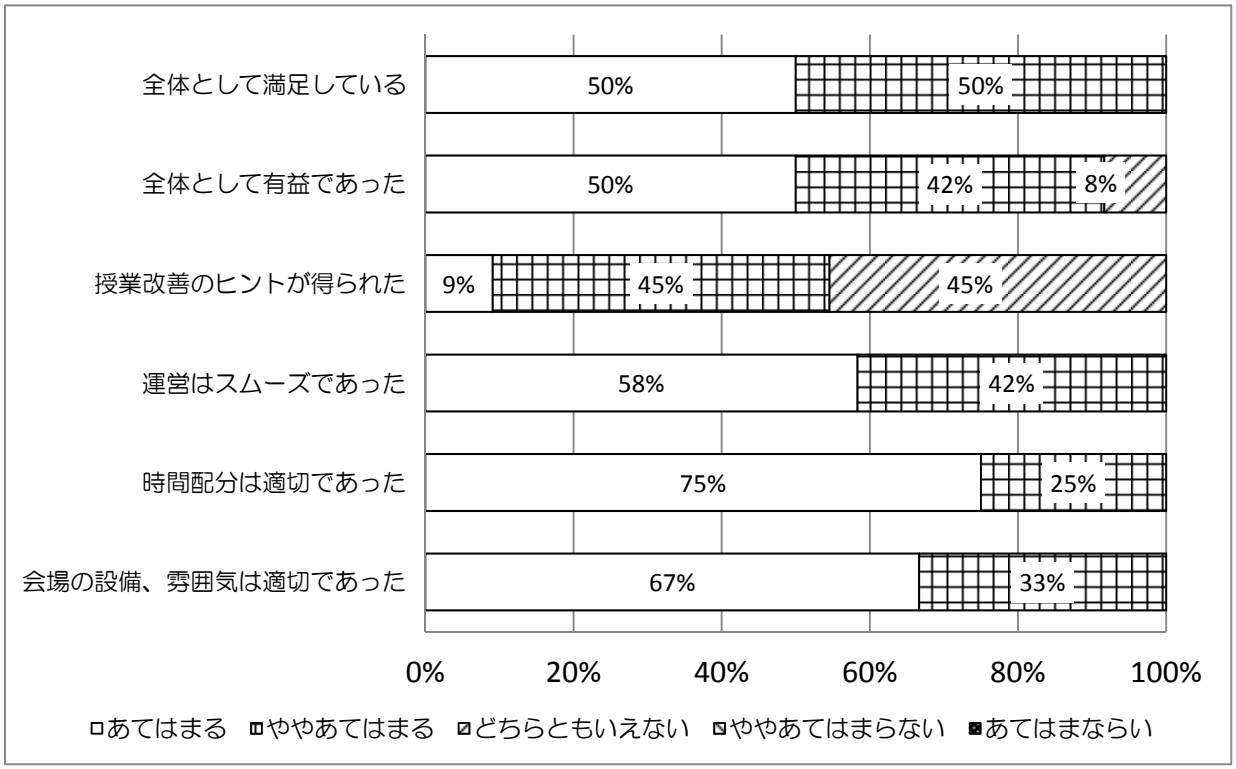
（内訳）

所　　属	人　　数
経済学部	3
医歯薬学総合研究科（医系）	2
医歯薬学総合研究科（保系）	1
熱帯医学・グローバルヘルス研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	3
ICT 基盤センター	1
大学教育イノベーションセンター	3
学外	1
計	15

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価



（回答者：１２名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ もっと参加者が増えたら良いですネ。（教育職員）
・ 大変有意義な研修でした。特に評価（成績）のあり方について，今後考えていく必要性を感じました。（教育職員）
・ モジュール導入の成果について，実証的な検証をそろそろすべきかと思います。（教育職員）
・ 自分の予習不足が多分に明らかになりましたが，参加の先生方の熱意が伝わってきて自分のモチベーションにはつながりました。（教育職員）
・ 自担当科目の授業改善に結びつく情報は得られなかった。（教育職員）
・ 発言者に論点を絞って発言してもらい，意見をまとめていく方がよい。（問題の具体的発見と対策につながっていない）（教育職員）
・ 来期以降，より汎用化された目標とのことだが，理解した上で，取り組みたい。（教育職員）
・ データの分析・まとめに対して先生方がどのように思われるかがわかりました。また，実際の成績評価の方法・考え方に対する様々なご意見を聞くことができましたので，今後の分析の中で活かしていきたいと思いました。参加できて良かったです。（事務職員）

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・ オムニバスは少なくする。1 人か 2 人で担当するのが良いと思います。2 人でやるのが良いのでは…。（教育職員）
・ 成績評価についてはある程度指針を出した方がよい。（教育職員）
・ 発言が無くなってしまった時の山地先生・若菜先生のファシリテーションがとてもよかったと思います。いろいろなご意見を聞くことができて，よかったです。（事務職員）

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

・ 議論になった評価のあり方を大学としてある程度決めたら良いと思います。（教育職員）
・ 今回のテーマについて定期的に実施してほしい。（教育職員）
・ 自由記述のアンケート集計データは有効だと思う。（教育職員）

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

当期モジュールⅡの授業評価ならびに出欠席に関する定量・定性データの集計・分析をもとに、平成 25 年度から当期までの推移が多面的かつ可視的に提供され、これに基づいて意見交換がおこなわれた。とりわけ、授業評価と成績の偏り・分布の関係が議論の焦点となった。

また、科目担当者へのアンケートの結果をもとに、テーマ責任者の負担、アクティブラーニングの実際から、教養教育の本質やあり方（成績評価の意味を含む）に至るまで、幅広く、かつ忌憚のない討議が交わされた。

セッション終了後にふりかえってみて、集計データの分析が主であったため、当期モジュールⅡにおける授業の工夫点と課題は共有された一方で、モジュール方式の制度面・実践面での改善方向を提案するためには、テーマ単位ではなくモジュール担当教員単位のパネル・データが提供されないと、ピンポイントで改善策・軌道修正案を講じられないのではないかと感じた。

（文責：林　徹）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１２０回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年９月２４日提出）

１．題　目：伝わりやすい話し方のコツ

２．日　時：平成 27 年 9 月 17 日（木）　10：00～12：00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　授業や研究発表、会議等の場面では、「話す内容」「話し方」のみならず、「誰が話すか」かが重要です。この講座では、教職員としての信頼される話し方、伝わる声，伝わる話し方をするためのコツについてトレーニングを行いながら、唯一無二の存在として学生や周囲の人々への影響力をあげていく話し方を考えてみましょう。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　矢野　香　助教（地域教育連携・支援センター）

【内容】
　① 印象設定…相手に与えたい印象により話し方のスキルは変わります。まず自分の初期設定を行います。
　② 言語トレーニング…話の組みたて、言葉遣い、など論理的にわかりやすく伝えるための方法について学ぶ。

③ 非言語トレーニング…声の出し方、表情、ジェスチャーなど非言語面について、聞き手を巻き込み退屈させない表現方法について学ぶ。

９．参加者：１８名（受講証発行対象者：１６名（学外者２名除く））

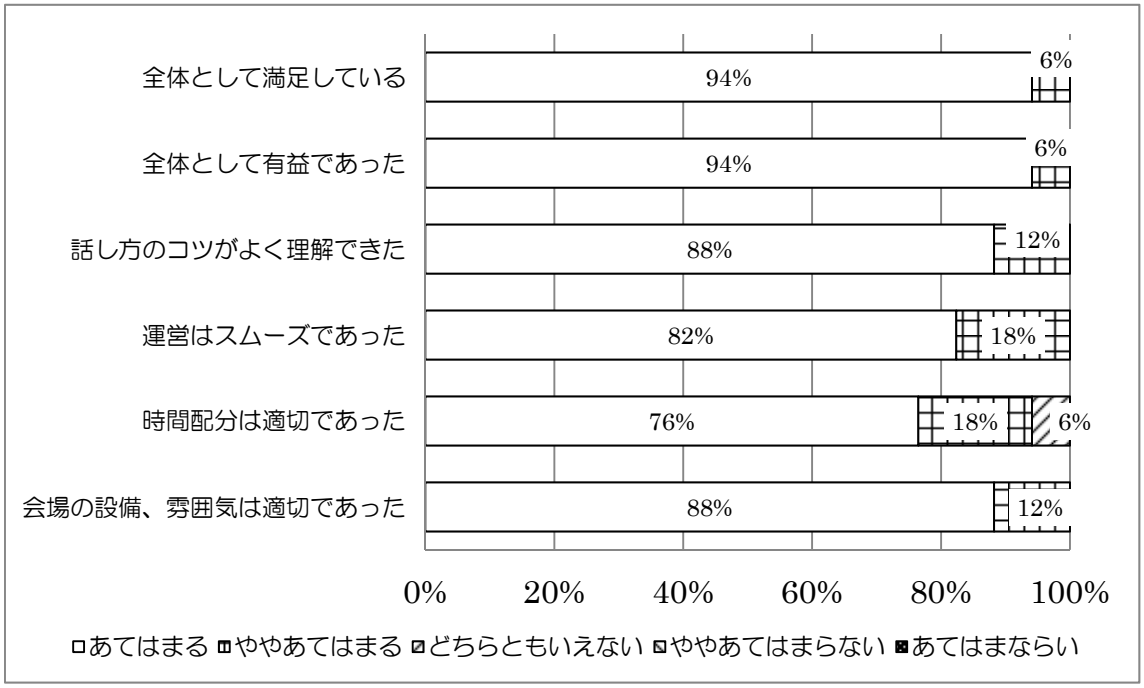
（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	1
医歯薬学総合研究科（医系）	2
医歯薬学総合研究科（薬系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	2
工学研究科	2
水産・環境科学総合研究科（環境）	2
保健・医療推進センター	1
ICT 基盤センター	1
言語教育研究センター	1
ダイバーシティ推進センター	1
学生支援部学生支援課	2
学外	2
計	18

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：１７名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 今まで経験や勘で授業を行ってきたのですが，今回のワークショップで気を付けるべき点を意識できるようになったかと思います。ありがとうございました。（教育職員）
- ありがとうございました。（教育職員）
- やはり，矢野先生のプレゼンはさすがでした。（教育職員）
- 学生指導の際，学会発表の際に参考にさせて頂きます。（教育職員）
- 非常にためになりました。考えたことがなかった事をたくさん教えていただきました。すばらしかったです。ありがとうございました。（教育職員）
- 実用的でとても参考になりました。（教育職員）
- とても参考になりました。次回のプレゼンに活用したいと思います。（教育職員）
- 非常に有益でした。（事務職員）
- バーバルを強化できるようなワークショップも受講したいです。（その他）
- 大変有意義でした。今後に生かしたいと思います。（教育職員）
- 3 分でも休けいがあればありがたかったですが，矢野先生の話がとてもわかりやすく，集中しつづけることができました。
- 有意義だったと思います。（教育職員）
- とても勉強になりました。少しずつですが，意識して実践してみたいと思います。（事務職員）

・　就活を控える学生や就活中の学生にも自分をアピールできるよう聞いてほしい（聞かせたい）と思いました。（事務職員）

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・　4～5 分時間を超過してしまいました。（教育職員）

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

・　文化の違いによるツボの違いなども今後知りたいと思います。今回のテーマについて定期的に実施してほしい。（教育職員）

・　倫理について（教育職員）

・　もし今日のアドバンスト版があればまた聴講したいです。（教育職員）

・　今回の話しをより多くの人に聞いていただくと良いと思います。今後もぜひ続けて下さい。（教育職員）

（２）総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

参加者の意見にも指摘があるように教員が学生に対して講義を行う上で、さらには学会等で発表・講演等を行う上でたいへん有意義なＦＤであった。言語上の観点と非言語上の観点に分けて、とくに非言語の面での指摘はたいへん新鮮であった。たとえば、講演の際、まず、してはならないならない２つの点、「肩より上の身体に手を触れない。」「机の隅に隠れるように立たない。」、さらには「揺れるものを身に着けない。」など、なるほどと思われる具体的な注意点が満載であった。ワークショップの中で、参加者がグループを作り、聴衆からどのように思われたいかを３つのカテゴリー（親しみやすく思われたい、活動的に思われたい、社会的に望ましく思われたい）に区別に、どのように振る舞うことで期待通りに思われるかについて体験した。最後の質問時間に参加者から多くの質問があり、数分の超過はあったが、２時間のワークショップはたいへんよく構成されたものであった。

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp　　電　話：内線 2077

第１２０回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年９月３０日提出）

１．題　目：LACS 活用事例報告会

２．日　時：平成 27 年 9 月 18 日（金）　13：30～16：00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
　［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
　［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
　［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
　［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　本学では全学的に学修管理システム（ＬＡＣＳ）の活用が進み、また昨年度からはＰＣ必携となっていますが、授業における効果的な ICT 活用の試みは余り共有されていません。そこで本プログラムでは、とくに LACS に焦点を当てて、積極的に授業で活用している事例を紹介しあい、苦労した点・失敗した点も含めてざっくばらんに実践交流を行うとともに、早急に解決すべき課題を整理します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　おもに教養教育担当者から 4 名～6 名
　若菜 啓孝　教授（大学教育イノベーションセンター）
　丹羽 量久　教授（ICT 基盤センター）
　上繁 義史　准教授（ICT 基盤センター）
　古賀 掲維　准教授（ICT 基盤センター）
　田中 俊幸　准教授（工学研究科）

【内容】

①LACS 活用事例 4 件～6 件の報告

②事例報告を受けて自由な意見交換と課題の整理

９．参加者：１２名（受講証発行対象者：１０名（学外者２名除く））

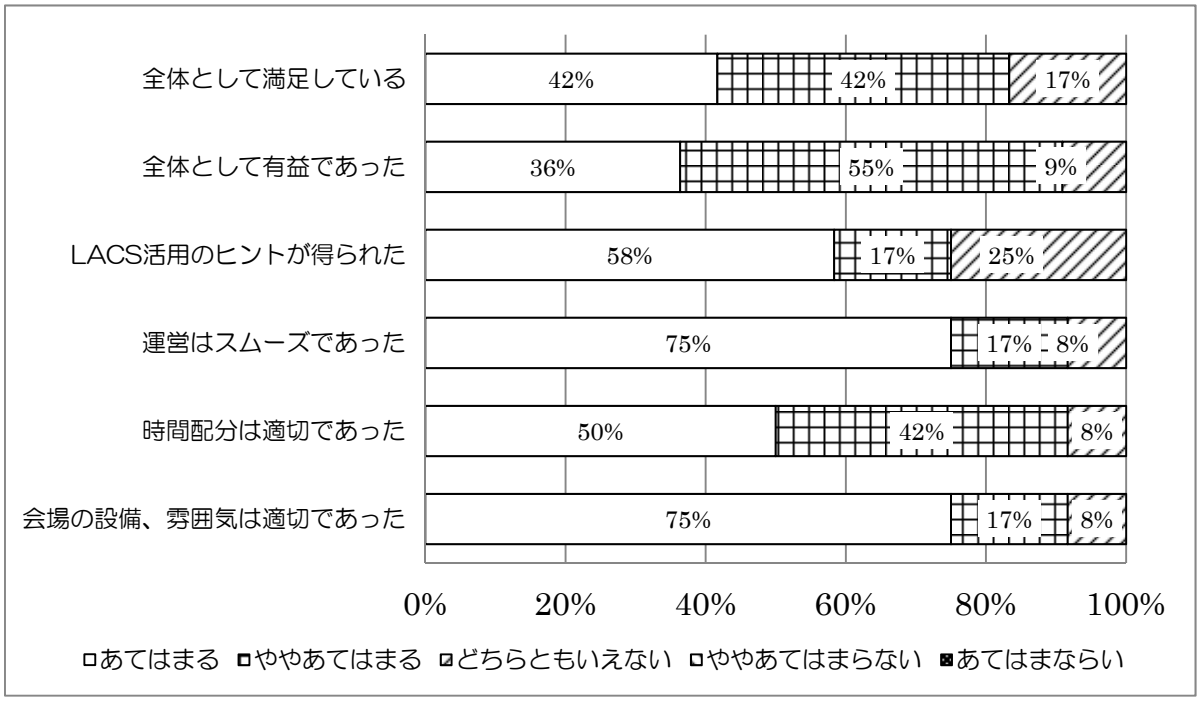
（内訳）

所　　属	人　　数
経済学部	1
医歯薬学総合研究科（医系）	2
水産・環境科学総合研究科（水産）	2
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
病院	1
大学教育イノベーションセンター	1
ICT 基盤センター	2
学外	2
計	18

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価



（回答者：１２名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ ICT センターの先生以外の方のお話，活用事例も伺いたかった。受講生の規模別にご紹介いただく先生を変えるのもよいかと思った。(今日は 60～80 名の受講生規模は今回よくわかったし，参考になった)（教育職員）
・ 事例報告集は LACS の機能で分類するのは使いにくいと思います。授業のこんな場面では○○○○，学生に△△△させるときはこのように使う，というまとめ方がよいと思います。教育職員）
・ LACS に興味を持っている先生方が固定化？しているように思います(同じ顔ぶれ)。新しく興味を持ってもらえる先生を開拓する努力が必要？本日のプリントの電子（PDF）を LACS にアップロードして欲しい。(教育職員)
・ この FD の到達目標を達したかと思います。(教育職員)
・ 事例報告と講習会が混在していたが，内容はためになった。(教育職員)
・ 様々な事例を聞くことができて勉強になりました。今後使いこなせるようになりたいので今回の皆さんの事例を参考にさせていただきたいと思います。(教育職員)

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・ LACS を定期試験に利用している教員がどの位いるのか，そして問題，課題を共有した方がよいのではないでしょうか。(教育職員)
・ 小さな字になるプリントはよく見えません（老眼)。(教育職員)
・ スクリーンを大きくして欲しい。あるいは手元でスライドが見たい（LACS 画面などの配布資料のない場合)。(教育職員)

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

・ 反転授業の実施例と問題点（教育職員）

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

今回のＦＤは、ＬＡＣＳを活用した授業経験の共有と、活用上の課題整理を目的に実施された。前半の事例報告では、一般的な講義やグループ学習ならびに事前・事後学修などにおいて、ＬＡＣＳの個々の機能が、何のために、どのような形で利用されているのか、様々な事例と工夫が紹介された。ＬＡＣＳを標準設定のままで利用している教員が多いと思われる中、ＩＣＴ基盤センターの講師陣から、ＬＡＣＳのちょっとしたカスタマイズ設定により作業を効率化できるポイントの説明が複数あったことや、教員と学生間だけでな

く、学生同士のやり取りへの活用法の紹介もあったことなどが、参加者に好評だったようである。一方、定期試験での利用法や学生へのフィードバックに関しては、ＬＡＣＳの利用経験が豊富な先生方でも苦労されていることが示され、課題の一つとして浮かびあがった。また、ＬＡＣＳ内に学科・コースのコミュニティーを設定して、学務および就職関連情報の学生への提供に活用するなど、工夫次第でＬＡＣＳを業務の効率化に活用できることが分かった。

残念ながら今回の参加者は多くなかったが、ＦＤで提示されたようなＬＡＣＳ活用のヒントをより多くの教員で共有することが重要であり、後半では「ＬＡＣＳ活用事例報告集」作成に向けての意見収集も行われた。今後も、異なる部局やクラス規模での事例報告を集めて紹介するとともに、活用のコツをＱ＆Ａ集としてＬＡＣＳ内で提供していくなど、本ＦＤと連携させた様々な情報共有を継続的に進めていくことが求められる。

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１２０回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年９月２８日提出）

１．題　目：障がいのある学生への合理的配慮 -その義務化に向けて-

２．日　時：平成 27 年 9 月 25 日（金）　10：30～12：00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
　[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
　[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
　[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
　[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　平成 28 年 4 月に施行される「障害者差別解消法」では、国立大学においても、障害者に対する差別的取扱いが禁止され、合理的配慮の提供も義務づけられています。しかし、教員にとってまだ馴染みの薄い「合理的配慮」についてどう考え、どう取り組めばよいでしょうか。本プログラムでは、障がい学生支援室の活動を紹介の上、教育活動において予想される影響および対応について情報を提供・共有し、意識改革および教育活動の改善をめざします。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　ピーター・バーニック 助教（障がい学生支援室）

【内容】
　① 合理的配慮に関する法律等の背景
　② 関連する本学における理念と方針

③ 障がい学生支援室の役割と支援体制
④ 合理的配慮に関する考え方と具体例
⑤ 小グループによる検討
⑥ 今後の流れと課題（ディスカッション）
⑦ 質疑応答
※簡単なアンケートも実施

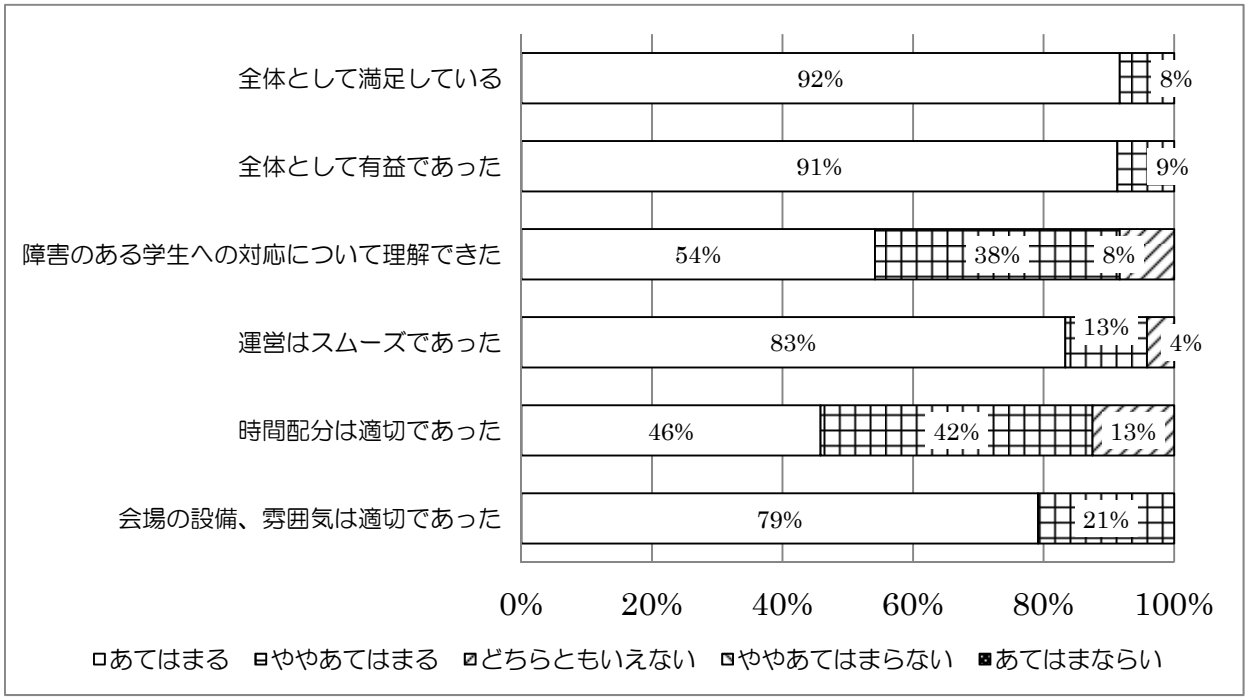
９．参加者：３０名（受講証発行対象者：３０名）
（内訳）

所　　属	人　　数
多文化社会学部	1
教育学部	1
工学研究科	9
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	2
医歯薬学総合研究科（医系）	2
医歯薬学総合研究科（薬系）	2
ICT 基盤センター	1
大学教育イノベーションセンター	1
言語教育研究センター	1
ダイバーシティ推進センター	1
障がい学生支援室	2
医歯薬学総合研究科事務部	1
学生支援部	4
学術情報部	1
計	30

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：２４名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 質問時間が足りない。学生に紹介（配布）する対策カード（掲示用チラシ，アシスト広場の紹介）が必要→学期毎のオリエンテーションでの周知依頼（教育職員）

・ 障害のある学生への合理的配慮の入門として理解できました。具体的な対応のノウハウを知りたいと思いました。（事務職員）

・ 大学の対応が遅い様な気がします。対応はどのレベル（学科，学部，大学）で決めていいのか。特にディプロマポリシーなど。（教育職員）

・ 対策の時間を長くしてほしかった。具体例がほしかった。但し，各班からの発表は役立った。（教育職員）

・ 本 FD に参加していない教員全体にも内容を周知すべき。（教育職員）

・ 大切なテーマと思いますので，今後も対象教員を拡大して継続していただければ幸いです。（教育職員）

・ グループワークで他学部の先生方の現場での経験，事例を聞く機会があり，有益でしたが，やはり質疑応答の時間をもう少し欲しかったです（先生方のご意見も大変参考になりました）。と思ったら，結構時間をとっていただきありがとうございました。（事務職員）

・ 国立大学が対応要領作成を求められるのであれば，附属校園も対象となるのでしょ

うか。であれば，附属校園の教職員にも聞いてほしい内容でした。ワークショップの中で，事例がとてもよかったので，支援事例集があるといいねという話になりました。（教育職員）

- 学生のできないことに合わせるだけでなく，学生のできないことの重要性を指導する・成長を促すことが大学にできるのかが最後の質問だと理解しました。（教育職員）
- これまでの対応事例や，教員が気をつけるべきことなど，とても参考になりました。できるところから実践していきたいと思います。（教育職員）
- 様々な障害とその対応事例を収集してまとめられらば，具体的な対応がしやすくなると思います。（教育職員）
- ピーター先生の喋り方がうまく，わかりやすいです。（教育職員）
- 覚悟が問われますね。（教育職員）
- とても有益な内容でしたが，課題もたくさんあったように思います。ありがとうございました。（その他）
- 参加者の中に事務職員は少なかったように思いますが，これから関わってくる可能性が高いと思うので，複数回 FD を開催して頂き，周知して頂きたいです。（事務職員）
- 障害者との共存がいかに難しいか思い知った。今回のワークショップの内容は，大学に関係する全教職員が考えるべきことではないか。（教育職員）

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

- 今回のテーマで 90 分は短すぎる。（教育職員）
- グループディスカッションが短すぎた。（教育職員）
- 案内もわかりやすかったし，特に改善するような点は思い付かない。（教育職員）

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 今回うっかりして自分だけ参加したのですが，次回チャンスがあれば文科省事業で雇用している専門スタッフにも声をかけたいと思います。（教育職員）
- ランチ持参で昼休みに行う。（教育職員）

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

障碍のある学生への合理的配慮に関する話でした。障碍者の意思の表明から始まり、ニーズの確認をした後に対応が決まっていくのですが、対応側が過重な負担とならないように、教育の本質・評価基準を変えず、他の学生に悪影響を及ぼさないようにということの様でした。学生支援の立場からはさらに障碍者のピックアップも重要なことの様でした。対応に関しては、障碍者との合意と対応者側の連携が大切とのことでした。

アンケート結果でも「障碍のある学生への対応が理解できた」人が少ない結果となっていますが、“合理的配慮”自体が、多様かつ個別性が高いとされ、どうやればいいのか、このFDでは収まりきれず、「障碍のある学生への対応が理解できた」とまでは言い切れなかったと思われます。「時間的配分」も質疑応答の時間が取れなかったなどが若干不満が残ったようです。

プロフェショナルとしての適性など悩ましいところですが、ともあれ、長崎大学でも障害者差別解消法に準じて対応要領が策定されるようです。それを踏まえながら、必要部署との連携を取り（連携マップなどが必要と思われますが）対応していきたいと考えました。

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１２０回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年１０月３日提出）

１．題　目：学生とともに進める教育改善

２．日　時：平成 27 年 9 月 25 日（金）　13：30～16：00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
　企画・実施：　評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員・学生

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
　（該当するものに○を記入すること）
　[　　]（1）　教員の教育活動に関するもの
　[　○　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
　[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
　[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
　[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　本学では、平成 22 年 6 月より「学生による教育改善のための協議会」が活動しています。各部局から 2 名～3 名の学生が推薦され、おもに教養教育と学習環境についての改善案をまとめてきました。このプログラムでは、それをもとに教職員と学生との間で教育改善への相互理解を図り、改善の手立てを明確化することを目指します。教員だけでなく、図書館や学生支援部など学生と密に接する部局の職員の方々、また関心ある学生諸君の参加を歓迎します。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　「学生による教育改善のための協議会」メンバー
　　評価・FD 教育改善専門部会委員
【内容】
　①「学生による教育改善のための協議会」より、教育改善要望等の報告
　②参加者との自由な意見交換と改善内容の検討
　③改善提案のまとめ

９．参加者：１８名（受講証発行対象者：９名（学生９名除く））

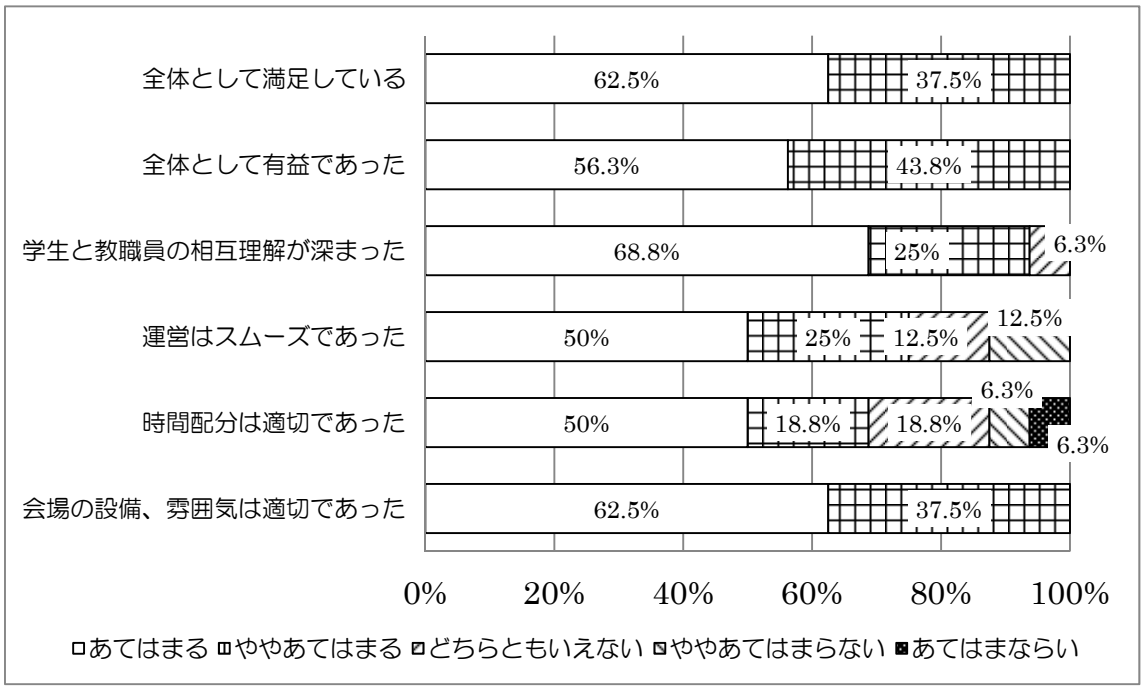
（内訳）

所　　属	人　数
教育学部	2
医歯薬学総合研究科（保系）	1
大学教育イノベーションセンター	3
学術情報部	3
学生	9
計	18

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価



（回答者：１６名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・　学生及び教員の考えが直接聴くことができ，今後の仕事にヒントになると思う。（事務職員）

・　メンバーは推せんされた学生さんかもしれないが，その中で一生懸命活動しようという気持ちが伝わってきた。メンバーそれぞれが 2～3 人の友人を連れて来てくれ

ればもっと活発になると思います。教員の参加も少なくて残念です。（教育職員）

- なかなか教員，学生の方々に意見を聞く機会が無いので，今回の FD で聞かせていただいたお話，ご意見はとてもありがたかったです。（事務職員）
- 図書館職員として，図書館という場をどう学生の自学自習の場としてより良いものにしていくか，そのヒントをもらいたいと思い，今回参加させていただきました。目標の明確化，社会で活きる，など様々なワードが自分の中に残りました。ありがとうございます。（事務職員）
- 学生が考える良い授業と教員が考える良い授業には共通点が多く，その点が本協議会の外にも周知されて行くと好いと思います。（教育職員）
- もっと討議・話し合いの時間がほしかった。付せんとポスターで何か形に残さないといけないのはわかりますが…。（教育職員）
- 対話とコミュニケーションをする授業への要望が高いということを知りました。（教育職員）
- 教職員の方々と意見交換できたのは大きかったです。今回のことが今後の活動に活かせたら嬉しいです。（学生）
- 参加人数の面（ちょっと少ないかな）から，議論の盛りあがりが心配でしたが，予想に反して活気があったように思う。（学生）
- 参加した自分の意識は高まりました。しかし，仰っていたように教職員の方に伝わる手段がないと悲しいです。（学生）
- 経済の授業日を被らせないで下さい。（学生）
- 学生，教職員それぞれが，当初の予定時間配分を超過する程，議論が活発に出て良かった。先生たちの率直な意見がきけて良かった。（学生）
- 教員が学生に対して感じていることやこうしてほしいということを聞く機会はなかなか無いので今日の議論は有意義なものになったと思います。（学生）
- 学生協議会の存在は知っていましたが，やはりもっと表に出るべきだと思いました。これからの活躍も期待しています。（学生）
- 学生と教職員の方が混合で話し合いを行う場面が多々有り，誰も発言せず雰囲気が悪くなるのではと心配していましたが本番では盛り上がりを見せていたので安心しました。（学生）
- グループ変えとかもしてみたい。（学生）

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

- 参加者をふやした方がよいと思います。その分多様な考えが示されると思うので。（事務職員）
- いつも思うのですが，経済，水産，工学部で他の教育，薬学，医学，環境科学部で

はどうなっているかと思います。(教育職員)

- ちょうど良い参加人数で，良かったと思います。(事務職員)
- 最初に進め方やスケジュールの紹介があるとよかったですね。(教育職員)
- もう少し，話しあいの時間をとれればよかった。(学生)
- もう少し多くの学生が参加できるように掲示板などを使って募集してみてはいかがでしょうか。(学生)
- 時間配分はもっと厳しくしていいと思います。(学生)
- なかなか司会進行をする機会がないため，ぎこちない部分があったと思うので改善する必要があります。(学生)

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 範囲をしぼったテーマ設定が，話題が広がりすぎずにいいと思う（今回の具合がいい感じなのでは，と思った)。(学生)
- 春にしてもいいと思う。(学生)
- もっと人数は集めた方がいいと思います。(学生)

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

今年度は、４つのグループに分かれて「学生が考える良い授業・学生が受けたい授業」という視点で教養教育の改善について討論した。学生からＦＤ後のアンケートに参加者が少なかった旨感想が寄せられているが、「学生による教育改善のための協議会」メンバーである学生委員も、学部によって出席の多寡が見られることから、今後協議会の内外に広く活動を周知し、合わせて本協議会の存在も広報していくことが望まれる。

一方で、本ＦＤそれ自体は、予定時間を超えるほどグループごとに活発な議論が行われた。従来とは異なり、図書館事務職員の方々もご出席いただき、「学生が考える良い授業・学生が受けたい授業」について情報を交え議論できたことは有意味である。

全体として、学生と教員の両方が「良い授業・受けたくなる授業」と思うのは、学生自らが参加する参加型の授業、対話型の授業、自らの考えを他者に伝えられる（伝える機会のある）授業、未知のことを共有できる授業、全てを忘れてしまっても後に何かが残る授業等である。参加者からは、本ＦＤについて肯定的な意見が多く聞かれたので、引き続き、本年度末の総括に向けて活発な議論を続け充実した提言がまとまることを期したい。

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077